

令和2（2020）年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

新教育の推進と成果を世界へ発信する拠点校としての位置付けを確立し、難関国公立大学や海外有名大学への進学を可能とする進学校

2. 中期的目標

1. 新教育の確立による唯一無二の進学校化
2. 海外大学への進学や海外での生活を可能とするグローバルマインドの形成と英語4技能育成プログラムの構築
3. 安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上

- ①新教育の徹底と発信
- ②第一志望進路実現100%
- ③募集の安定
- ④安心安全な学校の構築
- ⑤働き方改革の推進

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析【2020(令和2)年10月実施】	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価の項目が増加し、多くの項目において、過去5年間で最高の評価であった。 ・特に生徒においては、キャリア・受験・進学の項目の評価が大きく上昇した。 ・昨年度、新校舎の収納に関わる不満が出されたが、大きく改善された。 ・今年度も、担任指導に対する評価は非常に高かった。また、安全な学校生活の項目やコロナ対応も極めて高い評価となった。 ・国際教育の評価が低かったが、コロナ禍により、様々な取り組みがキャンセルされた結果であると考えられる。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学1年・高校1年の保護者の学校推薦度が大きく向上し、過去5年で最高の評価となった。 ・生徒と同様、安全な学校、コロナ対応、担任指導は極めて高い評価となった。 ・特に高3では、大学受験・進路指導の項目で高評価となった。 ・生活指導分野は全般的に高評価であった。 ・生徒と同様、総合学園の長所については評価が低かった。コロナ禍の影響もあり、高大連携の行事等もキャンセルとなり、中・高70周年の式典等もなくなった影響もあると考えられる。 	<p>○学校評価アンケートの実施時期について、できるだけ年度末に近いほうがいいのではないか。⇒集計・結果に基づいた振り返り等に必要な時間を考えて実施していることを伝える。</p> <p>○HP等でいろいろなことを発信してもらえていると思う。</p> <p>○2019年度の高校入試でかなり不合格者が出て、生徒・保護者も学校・塾も慎重になっているのは確かである。中学入試についても、生徒・保護者の中で合格できるのか、という不安が大きかったように思う。</p> <p>○子供の数が減っていることで、学校としての特色を出すのが重要だと思う。</p> <p>○中学から高校へスムーズに入っていけるので、中学から通わせるメリットは多くあると考えている。「煙突型」にすると、人間関係の狭さが気にはなる</p> <p>○探究は親からすると、まだよくわからない面があり、難しそう、というイメージだけで捉えているところがある。一方で、楽しそうに思えるところもある。</p> <p>○ICTの活用は、子供たちは随分慣れていて、コロナ休校の時も、学校の対応がありがたかった。</p> <p>○進路指導部が独立して、わかりやすくなった。先を見据えての指導をしてもらっていて、ありがたい。</p> <p>○コロナの影響もあり、動画配信等の工夫がされ、そのことによって学校に来られにくい保護者も進路のことがよく分かった。また、高3になって特に明確な方針を持って進路指導をしてもらっていることがよく分かった。低学年時から、そのことが伝わるような指導をしてもらいたい。</p>

4. 本年度の取組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 新教育による学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育と各種ポリシーに対する深い理解 ・新たな評価基準の策定と試行的運用 ・個別の学びの推進 ・放課後学習の体制のさらなる整備 ・教育EXPO 2020に向けた準備と学外での発信 	<p>(1) 教員が対話を重ねて、DPとCPを作成し、それに基づいた授業の在り方を考え、実践する。探究科の設置</p> <p>(2) DPとCPに基いた新たな評価基準を作成し、それによる試行的運用を開始する。</p> <p>(3) 個別の学びと放課後学習の体制のさらなる整備を進める。</p> <p>(4) 教育EXPO 2020 の開催と教育成果を学外における発信を進める。</p>	<p>(1) ・職員会議、教科会議での研修・対話の実施 ・DPとCPの作成 ・探究科の設置 ・探究科のサイト立ち上げとPV数</p> <p>(2) ・新たな評価基準の作成 ・学校評価アンケート ・授業評価アンケート</p> <p>(3) ・制度整備と放課後学習の参加者数 ・学校評価アンケート</p> <p>(4) ・教育EXPO 2020の開催とその動員数 ・学外での発信とその回数</p>	<p>(1) 職員会議での対話を通じて、DPとCPを再度文言化した。さらに、探究を教科化して探究科を設置し、教育広報の場として探究科のサイトを新たに立ち上げた。サイトのPV数は、当初10,000弱であったが、2月には30,000を超えるようになった。</p> <p>(2) DPとCPに基いて教科内で新たな評価基準を作成した。また、この一連の動きにより、本校の目指す授業の在り方を明確にすることができ、継続的な授業改善につながっている。</p> <p>(3) 放課後学習の担当を学習推進部から進路指導部に移し、自習室の体制の再整備を行った。年度初めに学校が休業となったため、自習室利用者が想定していたほどには増えなかったが、年度後半に徐々に増加した。2021年度はさらに手を加えて、新たな制度の下で運営を行う。</p> <p>(4) コロナ禍により、教育EXPO 2020は中止となった。2020年度の実施に向けて準備を進める。学外での発信は、予定されていたイベント等が中止となった。オンラインでの研修会で講師として本校教員が発表した。</p>
2 第一志望進路実現100%	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部独立とキャリア教育の計画完成 ・進路データ集の作成と教員間での共有 ・高大連携の再整備 	<p>(1) 学習推進・進路指導部から進路指導部を独立させ、より丁寧な進路指導を実現する。</p> <p>(2) 進路データ集の新規作成とその活用</p> <p>(3) 低学年時からの進路意識の醸成、模試分析から出願指導に至るまでの組織的な取り組み</p> <p>(4) 高大連携プログラムの再整理・再構築と海外大学との提携</p>	<p>(1) ・進路指導部の独立 ・学校評価アンケート ・第一希望進路実現</p> <p>(2) ・データ集作成 ・進路の指針作成 ・学校評価アンケート ・第一希望進路実現</p> <p>(3) ・生徒・保護者向け進路説明会の実施と参加人数 ・学校評価アンケート</p> <p>(4) ・高大連携推進委員会の開催 ・高大連携事業の実施と回数 ・海外大学との提携内容</p>	<p>(1) 学習推進・進路指導部から進路指導部を独立させた。また、放課後学習の担当も進路指導部の所管に移し、自習室の運営についてもより丁寧に行うことができた。</p> <p>(2) 進路指導部からデータ集を刊行し、生徒の進路指導や生徒募集用としても活用できた。また、高3の生徒・保護者向けに「進路の指針」を刊行し、必要な情報を伝えることで、生徒・保護者の満足度向上につなげた。2021年度には、低学年向けの進路の指針を刊行する予定である。</p> <p>(3) コロナ禍で対面の説明会を開催しにくかったが、休業期間中も動画を配信したり、低学年の保護者を積極的に誘導した結果、生徒・保護者ともに学校評価アンケートの満足度が向上した。</p> <p>(4) 高大連携推進委員会において、取り組み内容を共有し、また、高大接続の面でも制度を再整備した。コロナ禍ではあったが、マレーシアのTaylor's University との連携で指定校推薦枠が設けられ、早速本校から進学者が出た。</p>

<p>3 生徒募集の安定</p>	<p>・教育内容の広報 ・新規開拓エリアの選定 ・塾・中学訪問先と方法の検討・見直し ・コース制の整理・改編</p>	<p>(1) 生徒募集広報の内容の洗練化と共に、中期的視点での教育広報の展開を図る。探究のサイトを立ち上げ、教育関係者からの評価を得る。</p> <p>(2) 追手門学院小学校との定期的な情報交換を行い、本校教育の取り組み内容を周知し、入学につなげる。</p> <p>(3) 中学・塾訪問の方法の検討・見直し、新規開拓エリアの選定</p> <p>(4) コース制の整備</p>	<p>(1) ・探究のサイトの立ち上げ ・HPでの記事投稿数 ・HPのPV数</p> <p>(2) ・情報交換会の開催 ・保護者対象説明会への参加 ・小学校からの受験者数・入学者数</p> <p>(3) ・新規開拓エリアの選定と訪問 ・訪問の内容と重点エリアの再検討 ・志願者数、入学者数</p> <p>(4) 新コースの設置の検討と準備、法人内での手続き、学校案内等の準備</p>	<p>(1) 学校のHPとは別に、探究科のサイトを新たに立ち上げることができた。他校にはないテストのサイトで、保護者だけでなく、学外の教育関係者にも多く閲覧されている。毎月のPVは、平均して10万アクセスを超えた。HPへの記事投稿も増え、入学者へのアンケート調査の結果、HPが入学に至る大きな要因となっていることがわかった。</p> <p>(2) 追手門学院小学校との連携を重視し、小6だけではなく、小4・5の保護者の方に本校教育を発信することができた。地理的な距離の問題があるが、安定して一定数以上の入学者を確保できる条件を整備していく。</p> <p>(3) 校地移転により、通学経路が変わったため、新たに志願者を獲得するエリアを検討し、訪問して、本校を認知してもらう活動を行った。1年だけで大きな変化を求めるのは困難であるので、継続的に活動を行う。一方で、地元の中学・塾の訪問も重視し、人員の増強をして丁寧な訪問を実施していく。</p> <p>(4) 高校において新たなコースを設置することを決定し、その教育内容や生徒募集の方針と具体的な方法の検討を行った。新たに設定したDPとCPを基に、新教育を象徴するコースを設置して、本校教育を牽引するコースを育てる。</p>
<p>4 安心・安全な学校づくり</p>	<p>・新しい生徒指導・生徒支援の検討・実践 ・リスクマネジメント、クライシスマネジメントの学内体制の再整備 ・スクールロイヤーの体制整備と活用 ・若手教員への計画的研修</p>	<p>(1) 生徒指導部内での生活指導分野と生徒会指導分野の分離、生徒主体の生徒会運営</p> <p>(2) スクールロイヤーの体制整備と積極的活用</p> <p>(3) 問題が起こる前のリスクマネジメント力強化を意識し、担任・学年・分掌・管理職の間の情報・指導方針の共有の体制整備・強化</p> <p>(4) リスク管理小委員会の積極的開催、法人のリスク管理委員会との連携</p>	<p>(1) ・生活指導案件 ・学校評価アンケート</p> <p>(2) ・スクールロイヤー相談 ・初等中等部との連携 ・部長・主任会での情報共有</p> <p>(3) ・問題行動・処分案件の件数 ・学校評価アンケート</p> <p>(4) ・リスク管理小委員会の開催 ・法人のリスク管理委員会との連携 ・学校評価アンケート</p>	<p>(1) 以前から継続している、取り締まり方式の学校ではなく、生徒と共に学校を作っていく取り組みを大切に進めた。生徒会の活動が活性化し、生徒がコロナ禍においても様々な課題に積極的に取り組むようになった。</p> <p>(2) 初等中等部と連携して、スクールロイヤー相談を積極的に行った。何か問題が生じる前の対策や、初期対応前の相談ができ、学校運営が安定した。</p> <p>(3) 上記(2)と重なる面があるが、ことが起こる前の取り組みができるようになった。部長・主任会において生徒情報を共有し、管理職とも一体となってリスクマネジメントを行うことができるようになった。</p> <p>(4) 特に新型コロナウイルス感染症について、頻繁に小委員会を開催した。法人との連携を密にし、安心・安全な学校づくりを進めた。生徒・保護者の満足度は極めて高かった。</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>・新たな勤務体制の円滑な運用 ・週休2日制への準備 ・労務管理の徹底 ・情報の整理と早期での共有化</p>	<p>(1) 働き方改革推進委員会の発足と具体的な改善案の提示</p> <p>(2) 週休2日制の準備と曜日休運営</p> <p>(3) ICT活用でのタイムリーな情報共有、定例会議における情報共有の強化</p>	<p>(1) ・朝礼のオンライン化 ・管理職と委員会の意見交換</p> <p>(2) ・推進委員会との意見交換 ・法人組織との意見交換 ・校務運営委員会でのシミュレーション</p> <p>(3) ・ICT活用と研修の実施 ・オンライン朝礼実施 ・各種会議の効率化と情報共有のシステム整理</p>	<p>(1) 委員会を発足させ、委員会と管理職との意見交換の場を持ち、ちょっとしたことであっても改善できるところは、すぐに変えていけるようにした。朝礼のオンライン化をスタートした。</p> <p>(2) 2020年度にスタートした曜日休の制度の運営を行い並行して週休2日制についての意見交換と準備を進めた。シミュレーションを行うことで、課題整理も進めることができた。</p> <p>(3) ICT活用による仕事の効率化が進んだ一方で、確かタイムリーな情報共有の実現が課題であった。研修等を重ね、学年・教科のリーダーの指導の下、ICT活用の研修を持ち、オンライン授業のレベルアップや、各種会議の効率化を図ることができた。</p>